【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年12月11日(2008.12.11)

【公表番号】特表2008-517917(P2008-517917A)
【公表日】平成20年5月29日(2008.5.29)
【年通号数】公開・登録公報2008-021
【出願番号】特願2007-538030(P2007-538030)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　51/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/48　　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/15　　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/50　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　43/00
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｐ　43/00　　１１１
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　35/02
Ａ６１Ｋ　47/48
Ｇ０１Ｎ　33/15　　Ｚ
Ｇ０１Ｎ　33/50　　Ｚ
Ａ６１Ｋ　45/00

【手続補正書】
【提出日】平成20年10月21日(2008.10.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
治療用放射性核種を有するインスリン様成長因子１（ＩＧＦ－１）受容体リガンド。
【請求項２】
前記リガンドがキレート剤を含むリンカー部分によって前記放射性核種に結合している、請求項１に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項３】
前記治療用放射性核種が、ヨウ素１３１、イットリウム９０、インジウム１１１、レニウム１８６、またはルテチウム１７７である、請求項１に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項４】
前記リガンドがＩＧＦ－１受容体アゴニストである、請求項１に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項５】

前記リガンドがＩＧＦ－１である、請求項４に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項６】
前記リガンドがＩＧＦ－１受容体アンタゴニストである、請求項４に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項７】
前記リガンドが、インスリン受容体に対してより、ＩＧＦ－１受容体に対して大きな親和性を有する、請求項１に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項８】
前記ＩＧＦ－１受容体リガンドが、可溶性ＩＧＦ－１結合タンパク質に対する親和性が低下した変異ＩＧＦ－１タンパク質である、請求項１に記載のＩＧＦ－１受容体リガンド。
【請求項９】
毒素に結合したインスリン様成長因子１（ＩＧＦ－１）受容体リガンドを含む抗癌治療剤。
【請求項１０】
前記ＩＧＦ－１受容体リガンドがＩＧＦ－１受容体アゴニストである、請求項９に記載の抗癌治療剤。
【請求項１１】
前記ＩＧＦ－１受容体リガンドがＩＧＦ－１である、請求項１０に記載の抗癌治療剤。
【請求項１２】
前記ＩＧＦ－１受容体リガンドがＩＧＦ－１受容体アンタゴニストである、請求項９に記載の抗癌治療剤。
【請求項１３】
前記ＩＧＦ－１受容体リガンドが、インスリン受容体に対してより、ＩＧＦ－１受容体に対して大きな親和性を有する、請求項９に記載の抗癌治療剤。
【請求項１４】
前記ＩＧＦ－１受容体リガンドが、可溶性ＩＧＦ－１結合タンパク質に対する親和性が低下した変異ＩＧＦ－１タンパク質である、請求項９に記載の抗癌治療剤。
【請求項１５】
前記毒素が、ジフテリア毒素、シュードモナス外毒素、クロストリジウム・パーフリンジェンスエンテロトキシン、リシン、またはそれらの毒性フラグメントである、請求項９に記載の抗癌治療剤。
【請求項１６】
抗癌活性に関して化合物をスクリーニングする方法であって、治療用放射性核種を有するＩＧＦ－１受容体リガンドを含む化合物に癌細胞をｉｎ ｖｉｔｒｏで接触させることを含む方法。
【請求項１７】
前記治療用放射性核種を有するＩＧＦ－１受容体リガンドが、可溶性ＩＧＦ－１結合タンパク質に対する親和性が低下した変異ＩＧＦ－１タンパク質である、請求項１６に記載の方法。
【請求項１８】
抗癌活性に関して化合物をスクリーニングする方法であって、毒素に結合したＩＧＦ－１受容体リガンドを含む化合物に癌細胞をｉｎ ｖｉｔｒｏで接触させることを含む方法。
【請求項１９】
前記毒素に結合したＩＧＦ－１受容体リガンドが、可溶性ＩＧＦ－１結合タンパク質に対する親和性が低下した変異ＩＧＦ－１タンパク質である、請求項１８に記載の方法。